地方創生ばなし《その13》

時節は流れ あの「サバちゃん」が 今や「お嬢サバ」に

幹事　青砥　基

戦後間もない頃、境漁港は連日のように「鯖」の大漁に沸き返っていた。出荷するためのトロ箱が間に合わず中学生からお年寄りまで男達は「箱打ち」に駆り出された。釘を打ちつけ一箱組み立てて、工賃は、8円から10円、それでも当時、いいアルバイトで、中学生は、週末の二日間で一人、800円位は手にした。（ラーメン一杯70円の時代である）

▲筆者の青砥さん

サバ船（巾着網）から、水揚げされた「サバちゃん」達は、砕氷した氷とともにトロ箱に詰められ、貨車（鉄道）やトラックで、主に関西方面に向け出荷された。水揚げされたばかりの活きのいい「生サバ」は味も良く、貴重なタンパク源として戦後の食糧難の時代を救った。

▲お嬢サバ陸上養殖センター

写真／JR西日本提供

時を経て、今また、本格的な「生サバ」の味覚が見直されようとしている。

日本海を回遊するサバに注目し、地下からくみ上げた海水を使った陸上養殖により、青魚特有の臭みを取り、食通は恐れる寄生虫（アニサキス）がつきにくいものを育てる養殖試験を、「鳥取県栽培漁業センター」が2012年から開始。その後「JR西日本」が研究に加わり、本格事業化された。岩美町内の網代漁港に飼育用50トン水槽9基、出荷用10トン水槽4基を備え、1年程度かけて育て、約1万5千匹の出荷にこぎつけた。2018年3月から「お嬢サバ」というブランド名で本格出荷している。まだ、出荷時期限定、出荷先限定（参考：料亭食卓価格1匹3800円）のようだが、事業採算の目途がついたという。この先、順調に生産を伸ばせば、鳥取県産の高級魚「お嬢サバ」が全国の市場に出回る日もそう遠くなさそうだ。

寄稿

日大学生グループが八頭町と交流 都内でピーアール活動

山田　雅行

鳥取県は現在交流人口拡大に向け、注力しています。

私が応援している日本大学文理学部の国際交流ボランティアグループサラマットは今年9月に鳥取県八頭町を16名が訪問しました。訪問は6年目になります。八頭町では花卉やタマネギの出荷作業や生産者との交流、栽培施設等の視察を行いました。昨年は機会を得ています。販売収益の一部は、グループの活動目的であるフィリピンの学生への就学支援事業に寄付されています。

▲筆者の山田さん

学生をハブにして八頭町と渋谷区の地域がつながり、渋谷区内でも八頭町の生産者が上京して交流会を行うなど相互且つ継続した活動が交流人口拡大に向けて効果を挙げています。

今後は社会人を巻き込んで更なる交流人口拡大に向けて努力をしていきたいと考えています。

（一部を八頭町報誌11月号から引用しました）

国立新美術館の「行動展」で「向井潤吉賞」に輝いた鳥取県境高出身の永本秀男さん

去る9月に開催された国立新美術館での「行動展」（行動美術協会主催）で「向井潤吉賞」の栄冠に輝いたのは鳥取県境高出身（27期）の永本秀男さんであった。この話を知らせてくれたのは、境高の同窓に当たる本紙カメラマンの中村仁史さんである。後輩画家の栄誉を讃えて数名の在京先輩たちでお祝いの会を持ったというのも、境高同窓会かしのは会の結束力の堅さを物語る。

永本さんの画風は、抽象画の部類に属するが、向井潤吉といえば、茅葺屋根の民家で知られる典型的な具象画なので、その受賞は快挙といってよい。

自由闊達な「行動展」らしいところである。

永本さんは境高を卒業すると多摩美術大学の日本画専攻を修め、定年まで株式会社平和マネキンという会社に勤務した。「ディスプレイ関連の仕事はそのまま絵の制作にも通じるものがあり、会社人間でありながら芸術家の道に夢を託すという、公私混同の日常生活を送っていた」と永本さんは述懐する。

転機は4年前、「行動展」で新人賞に輝き会友に推挙されたことである。（現在会員）

一念発起、また制作に没頭する日常が始まったのである。「絵を描くことは気力と体力が一番」と、永本さんはジョギングとサイクリングは今でも欠かせないという。

家族は、妻と受験を控える一人娘の3人暮らし。親の背中を見て育った娘が芸大志望なんです」と親の気遣いをのぞかせた。画家としては油ののった60代に突入。

（写真は「向井潤吉賞」のもの　文・遠藤隆司）

郷土縁の万葉歌人 山上憶良と大伴家持

景山　勝一

有名歌人山上憶良と大伴家持の名前だけはよく知っていましたが、明治大学と鳥取県の連携講座（講師は因幡万葉歴史館学芸員の鎌澤圭伸さん、明治大学の山崎健司先生）で初めて両者が鳥取県ゆかりの万葉歌人と知り、大感激しました。

▲筆者の景山さん

憶良は一三〇〇年前の奈良時代、57歳で伯耆の守に任ぜられてより民の暮らしに寄り添いながら歌を詠み、他方、憶良の60年後に生まれた家持は、41歳で因幡の守に任ぜられて後年万葉集を編纂、巻末に因幡の国で詠んだ「新しき年の始めの初春の今日降る雪のいや重け吉事」を遺しました。

歌人憶良の魅力の一つ子煩悩は「瓜食めば子ども思ほゆ、栗食めばまして偲はゆ」と昼も夜も頭を離れず、「銀も金も玉も何せむに勝れる宝子に及かめやも」と詠み、絶賛しています。

もう一つの魅力は誠実さで、貧窮問答歌「風交じり雨降る夜の……寒くしあれば麻衾引き被り布肩衣有りのごと着襲へども、寒き夜すらを我よりも貧しき人の父母は飢ゑ寒ゆらむ、妻子どもは乞ひて泣くらむこの時はいかにしつつか」に、官吏として民を想う憶良の誠実、謙虚な人柄と人間本来の赤裸々な情愛が溢れていて、一三〇〇年の歳月に聊かも色褪せることなく、現代人の心に迫り、激しく揺さぶります。

他方、歌人家持の魅力は自然描写で、代表作は

・春の野に霞たなびきうら悲しこの夕影にうぐひす鳴くも

・我がやどのいささ群竹吹く風の音のかそけきこの夕べかも

・うらうらに照れる春日にひばり上がり心悲しもひとりし思へば　などと言われます。

憶良は七〇歳の正月、筑前の守として家持の父大伴旅人が太宰府の邸で催した梅花の宴に参席しました。歌会は万葉集巻五に梅花の歌として収められましたが、その序文「時に初春の令月にして、気淑く風和らぐ」が元号令和の由来となり、一躍脚光を浴びました。催主旅人の「我が園に梅の花散るひさかたの天より雪の流れ来るかも」の流麗な作風に、その子家持の花鳥風月描写の源泉を見る思いがしてなりません。家持の叔母、坂上郎女も女流歌人でした。

講演写真／新日本海新聞社東京支社提供

品質とおいしさ　ヤマザキ
ロイヤルブレッド
Royal Bread
毎日おいしい
しあわせを。
山崎製パン株式会社
最高顧問　山田憲典

鳥取県人に幸せあれ！
東京鳥取県人会　副会長
とっとりふるさと大使
（社）日本インドシナ協会 代表
（株）ナレッジカンパニー 代表
日本メナード化粧品（株）取締役
東京米城会　副会長
勝部日出男（淀江町出身）
〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷 3-4-23-203
TEL: 03-5785-3348
E-mail:katsube@knowledgeco.jp

スタイリッシュなホテルステイ体験を!
リーベルホテル アット ユニバーサル・スタジオ・ジャパン

LIBER HOTEL
AT UNIVERSAL STUDIOS JAPAN
2019年11月13日大阪に開業!
〒554-0031 大阪府大阪市此花区桜島1-1-35
<JR桜島線 桜島駅より徒歩1分>
WEB：https://hotel-liber.jp/
株式会社武蔵野 会長 安田 定明（南部町出身）
TM & © 2019 Universal Studios.　SH19-0107

イラスト／かわにしよしと

「チアドリーマーズ」代表 渡邊紗恵子さんが語る 子供たちのスポーツへの夢

地方である鳥取のジュニアスイマーの夢を叶える環境を創りたいと語る「チアドリーマーズ」代表、渡邊紗恵子さん。5歳まで米子市でその後鳥取市で育つ。湯梨浜学園高校を卒業、現在、津田塾大学で総合政策を学ぶ3年生。3歳から水泳を始め、水たまりがあると手足をつっこみたくなるほど水のスポットが好き。10歳の時に、五輪で金メダルの北島康介選手の活躍がきっかけとなり、さらに競泳への思いが強くなった。悔しい思いを乗り越えて、中3の時に50m自由形で中国大会の、決勝まで勝ち進んだ。マスターズで競泳を続けている渡邊さんが、これまでをふり返り、地方の子供たちは、アスリートとしての夢を描けているのか、都会とのサポート環境に格差はないかと、自身の経験を重ね、今の実力に関係なく「全国・国際大会」に出るという目標を実現してほしいと「チアドリーマーズ」を立ち上げた。全国大会に行った事がない地元・鳥取県のジュニアスイマーたちにハイレベルな大会と生で観戦する機会を提供するツアーを企画運営、スポーツメンタルトレーナーによるワークショップや試合観戦を通じて普段の練習にどう生かしていくかを学ぶ。2020年1月に東京で開催されるKOSUKE KITAJIMA CUPは「東京から世界へ」をスローガンに、小学生から実業団選手まで、広い年代の選手たちが競うハイレベルな競泳大会。この大会を県内の小学生競泳選手たちが観戦する予定である。子供たちの喜ぶ顔、夢を描いている顔が見たい、未来へのサポートをしていきたいと語ってくれた。

（文／金田ちかこ）

▲渡邊紗恵子さん

●交流部会●

交流部会長　勝部日出男

今秋も楽しく県人会交流・懇親活動が繰り広げられています。

●11月11日(月)、第46回因伯オープンゴルフコンペが湘南カントリークラブ(神奈川県)にて開催され、女性6名、ご夫妻4組、ご家族同伴を含む9組32名(写真参照)で競い、ゴルフ日和の和気藹々の一日になりました。東部出身越谷大輝様(越谷重友様お孫さん)が初参加、めでたく初優勝(写真参照)と、この3回連続で初参加優勝が続いています。回を追うごとに参加者が多彩になり、とても参加し易くなっております。次回は来年5月18日(月)キングスフィールド(千葉県)を予定。お誘い合せの上ご参加を期待しています。

●11月28日(木)、恒例の秋の囲碁大会が市谷の日本棋院で開催されました。4戦全勝した西尾省三さんが見事に優勝されました。来春も5月頃に春の大会をマスコミ対抗戦として麹町ダイヤモンドサロンにて予定。愛好家の方は是非。

●来春1月26日(日)には、国立劇場での新春歌舞伎公演「菊一座令和仇討」の鑑賞会を、専門家のレクチャー・昼食付で企画しています。尾上菊五郎、尾上松緑、尾上菊之助ほか豪華な出演陣によりお届けする新春の華やかさ溢れた舞台をお楽しみいただけます。団体特別昼食付料金で、特別席(12、500円)、1等A席(10、000円)、1等B席(7、000円)を用意。来年1月10日(金)までにお申込下さい。(問合せ先：県人会事務局03-5212-9178)。

●来年3月1日(日)には、考古学者関西外国語大学佐古和枝教授による講演会(仮題：弥生時代から白鳳時代までの山陰)を、とっとり・おかやま新橋館2階にてクラブ70と共催します。古代山陰隆盛ロマンにご関心ある方々のご参加を期待しております。

今後の交流活動は、鳥取県に縁ある同窓会・同郷会等各種団体と連携・相互交流を高め、会員増にもつながる活動とします。ご協力をよろしくお願い致します。

▲漫画／かわにしよしと

小さなふるさと創生発見

漫画家のかわにしよしとさんから借りた「小鴨ノスタルジー」という冊子がここにある。A4版上質コート紙で40頁程の冊子だが、倉吉市の小鴨地区長坂に在住の吉村勲氏が描く水彩画と切り絵に歴史的伝承が記述され、それにもとづく土地の人達のエピソードが綴られている。淡い色彩の精緻な絵と、長谷川富三郎氏の版画を元に描かれた切り絵も味わい深い。

監修者が倉吉博物館館長の根鈴輝雄氏と同主任学芸員関本明子さんであり、作成委員の中には元鳥取短期大学教授の中嶋邦彦氏とか、元小鴨小学校校長新川裕二氏、小鴨公民館長廣谷啓一氏等の名前があり、エピソードを綴った土地の人々等の名前も列記されている。町の歴史遺産に関する好事家達の熱い会話が伝わってくるような秀逸な冊子とお見受けした。

写真は冊子の表紙と本文中の絵。（遠藤隆司）

編集後記

▼想定外の台風被害が相次いだ。異常気象は地球温暖化が第一要因だ。主要大国はそっぽを向かないで欲しいし、防災省アリキも真剣に考えたらと思う。▼今回もバタバタの発刊だった。クライアント様並びに執筆者の皆様に御礼申します。▼皆様、よいお年をお迎えください。（遠藤隆司）

県人のお店

境港直送の〝海の幸〟がいっぱい 海鮮料理専門店「海幸」

JR常磐線「松戸駅」から徒歩3分「キテミテマツド」(旧伊勢丹)の10階。今年7月20日、フロア席374席の大型「アジアンフードガーデン」がオープンした。日本を含むアジアの人気料理店10店舗が展開している。その中の一つが海鮮料理専門店の「海幸」だ。

この店を取り仕切るのは、境港出身の橋上賢二さん（50歳）。境港にある水産会社の加工部門で鍛え上げた魚の目利きだ。「毎朝、境港の魚市場と直接電話でやりとりをし、写メールで送られてきた魚をチェックして、あがった魚の中から厳選したものを直送してもらっています。〝料亭の味〟を安価で食べていただきたいというのが、うちの店のウリなんです」と橋上さん。実際、銀座で料亭を営んでいた料理長が腕をふるっている。

今が旬の天然ブリ、ノドグロ、関東には出回らないカナの刺身は鮮度抜群！どれも絶品だった。ブリの色は赤みを帯び、通常のブリの色と全く違う。ノドグロを刺身で出せるのは料亭ぐらいだ。カニあんの茶碗蒸しはコクがあるのにさっぱりした味わい。あらの煮も南蛮漬けもみそ汁も出汁の効いた上品な味付けだ。なるほど〝料亭の味〟に納得。

「高価ないい魚を仕入れて、値段を高くして出すのは当たり前ですが、うちのように、いい魚を低価格で提供できるのは、境港の魚市場から直送しているからです」(橋上さん)。

確かに、料理の内容も値段も良心的だ。定食と丼はそれぞれ9種類。¥800～3800。一番人気の「刺身定食」(¥1480)の内容は刺身5種、あら煮、南蛮漬け、茶碗蒸し、みそ汁。海の幸が満喫できる。コース料理は¥2000～10000。

日本酒は境港の地酒の「千代むすび」がある。レストランや食堂で注文した料理に裏切られることはままあるが、ここは大丈夫。期待以上の料理が出てくることウケアイ。リピーターが多いのもうなずける。

■千葉県松戸市松戸1307－1キテミテマツド10F／TEL047・711・6039

■営業時間／11：00～22：00。（文／加藤雅子・写真／中村仁史）

▲橋上賢二さん

▲お料理は「大漁」3,800円

半蔵門ビル
BrainStorming
General Manager　近藤貴史
〒102-0083 東京都千代田区麹町3-1
KOJIMACHI TERRACE B1
TEL 03-6272-8608
E-mail:kitchen@combine.co.jp

株式会社チュウブ
代表取締役会長　大田英二
〒103-0014 東京都中央区日本橋蛎殻町1-29-6
水天宮前東急ビル6F
TEL 03-5640-8122
FAX 03-5640-8100

株式会社 みつ國
ナリジブ研究会代表
特定社会保険労務士
行政書士
三ツ國 全代
Mitsukuni Masayo
〒103-0022 東京都中央区日本橋室町1-11-6
サンパティーク日本橋三越前403
TEL 090-2291-8698
E-mail:mitsukuni@moyorino.info https://narijibu.jimdo.com

谷田弘則税理士事務所
税理士 谷田弘則
〒232-0066 神奈川県横浜市南区六ツ川2-71-16
TEL 045-715-3232 FAX 045-715-0612
E-mail:tanida@sepia.plala.or.jp

税理士 松嶋一海
（湯梨浜町　出身）
〒160-0008 東京都新宿区四谷三栄町14番4号
松啓ビル201号
TEL・FAX 03-3357-5010
E-mail:info@tpkzm1.com
matsushimazeirishi@yahoo.co.jp